

PAL

2023

vol.541



from April 2022 to March 2023 for the Future

特集 | 学長インタビュー

開学60周年 伝統の継承へ挑む

北翔クリスマスナイト

キャンパスを彩る光のイベント

ゼミナールの学外連携

支援は学び。
ボランティアは成長の場。

北翔の地域連携 キャンパス事件簿
学部・学科ニュース 2022年間ダイジェスト
北翔大学ファン



開学60周年のあゆみ

1963



「女性にふさわしい職業的技能と、幅広い教養をもつ自立できる社会人の育成」を建学の精神として開学。今日までの発展の基盤を築きました。

1973



開学から積み重ねた質の高い指導が実を結び、入学者が定員を大きく上回るように、各種教室や図書館など、施設・設備も拡充されました。

1983



技術革新が進み、社会がめまぐるしく変貌した時代。幅広い職業人の育成という要請に応え、5学科7コース・専攻科へと規模が拡大しました。

1993



1997年、短大単独の教育体制に終止符を打ち、新たに4年生大学を開学。本学の教育・研究領域の基盤が確立されました。

2003



開学から培ってきた教育資源を幅広く学ぶことのできる人間総合学科を2003年に開設。2007年には現名称の北翔大学となりました。

2013



開学時に植樹された木々は約半世紀を経て大きく成長し、緑豊かなキャンパスに。教育資源も大きく培われてきました。

**優秀な卒業生に支えられて歩んできた60年。
その伝統を引き継ぎ、教育・研究の質をいつそう高めたい。**

情報化社会に対応できる人材を養成する経営情報学科を開設。そして1997(平成9)年には人間福祉学部を擁する4年制大学を開学し、3年後の2000(平成12)年には生涯学習システム学部を開設しました。この時点では本学の教育・研究領域の基盤が確立され、現在の大学5学科・短大2学科体制へと受け継がれてきました。

個人的な話になりますが、私は1977(昭和52)年に釧路の中学校で初めて教壇に立ちました。そんなある年、市内の別の中学校に、当時の本学保健体育学科を卒業した女性の教員が赴任しました。その先生がバスケットボール部の指導を始めると、メキメキと強くなっています。そんな様子を傍らから眺めながら、「こんなに優秀な教員を育てる北海道女子短期大学では、どのような教育をしているのだろう」という興味を抱いたのを覚えてています。

その後、教育委員会で指導主事をしていた際、幼稚園を訪れるとき、園長先生から「北海道女子短大を卒業した幼稚園教諭は、小学校の教員免許を持っている人が多く、子どもの成長を見通した指導ができる」という話をよく聞きました。こうした経験

員が赴任しました。その先生がバスケットボール部の指導を始めると、メキメキと強くなっています。

そんな様子を傍らから眺めながら、「こんなに優秀な教員を育てる北海道女子短期大学では、どのような教育をしているのだろう」という興味を抱いたのを覚えてています。

振り返っても、本学は社会で活躍できる即戦力を養成してきた伝統が

間違いないと感じます。そして、

そんな優秀な卒業生の方々に支えら

れながら、60年を歩んでこられたの

だと確信しています。

**大学ほど美しいものはない
その言葉を胸に未来へ**

この先も、こうした本学の伝統を大切にしながら、教育・研究の質をいつも高めていくことが重要です。それと同時に地域社会にアンテナを広げ、地域の要請や課題に応えられるような新たな教育・研究体制も模索してまいります。

60年前といえば、ケネディ大統領暗殺があった年でもあります。そのケネディがある大学で演説した際に紹介した言葉を、学長室に掲げてい

ます。「大学ほど美しいものはない。未知であることを残念に思う者が知ろうと努力する場であり、真理を知る者が他を啓発する場だからである」。この言葉を胸に、本学を未来へとつなげていく所存です。学内外の皆様、今後とも本学へのご支援をよろしくお願いいたします。

60年の歴史を簡単に振り返りますと、被服科の単科から始まったのち、短期大学では唯一、保・幼・小の3つの資格・免許を取得できる学科です。今後も実践力の高い保育者・教育者を養成してまいります。

社会で活躍できる即戦力を養成してきた伝統

一方のこども学科は、東北以北の短期大学では唯一、保・幼・小の3つの資格・免許を取得できる学科です。今後も実践力の高い保育者・教育者を養成してまいります。



特集

開学60周年 伝統の継承へ挑む

北翔大学・
北翔大学短期大学部 学長
山谷 敬三郎

やまと・けいざぶろう／1952年、遠軽町出身。2018年2月より本学学長。東北大学院後期博士課程修了・博士(教育情報学)。中学校教諭、北海道教育委員会を経て、1997年に本学短期大学部・初等教育学科に助教授として着任。公益財團法人日本高等教育評価機構理事、日本応用教育心理学会理事、日本学校心理学会理事、日本学校心理士会会長、北海道教育相談スーパーバイザーなど役職多数。

専門学校での実践をもとに、より高度な教育機関をめざして

北翔大学は今年、開学60周年を迎える。「北海道女子短期大学」の名

称で被服科を開設したのは1963(昭和38)年のこと。その24年前にあ

たる1939(昭和14)年、「女性の社会的な自立に貢献したい」という

想いで、初代院長・浅井淑子先生が創立したのが専門学校「北海ドレスメーカー女学院」です。淑子先生は

専門学校での実践を踏まえたうえで、より高度な専門性と教養を身につけられる教育の場として短期大学の開学に踏み切り、本学の歴史が始まりました。

2023年度の短期大学部は、ライフデザイン学科とこども学科の2学科構成で運営されています。

ライフデザイン学科は、学生の関心に合わせて自らの将来を「デザインするための学科」として、2003年に開設(旧称・人間総合学科)。現在はキャリアデザイン、ファッショントラベル芸術の3コースで構成されており、開学当初から存在した被服科の流れを汲んでいる歴史ある学科です。

しかし、ここ数年は定員を満たさない状況が続き、残念ながら令和5年度から学生募集を停止しました。同学科の教育内容は、4年制大学の芸術

イフデザイン学科とこども学科の2学科構成で運営されています。

ライフケア学科は、学生の関心に合わせて自らの将来を「デザインするための学科」として、2003年に開設(旧称・人間総合学科)。現在はキャリアデザイン、ファッショントラベル芸術の3コースで構成されており、開学当初から存在した被服科の流れを汲んでいる歴史ある学科です。

しかし、ここ数年は定員を満たさない状況が続き、残念ながら令和5年度から学生募集を停止しました。同学科の教育内容は、4年制大学の芸術

イフデザイン学科とこども学科の2学科構成で運営されています。

一方のこども学科は、東北以北の短期大学では唯一、保・幼・小の3つの資格・免許を取得できる学科です。今後も実践力の高い保育者・教育者を養成してまいります。

キヤンパスを彩る光のイベント



光のイベント



昨 年12月24日のクリスマスイブ、本学キヤンパスの中庭で、子どもたちの歓声が上がりました。

「あれ、ぼくの絵〜！」

「すごーい、おつきいね〜！」

地域の子どもたちが描いた絵がプロジェクトマッピングによって雪面などに映し出されたのです。

また、中庭の樹木一本は、イルミネーションが施されてクリスマスツリーに。藤棚もライトアップされました。6号棟学生ホールの窓には、サンタクロースなどのステンドグラスも飾られ、中庭全体が心温まるクリスマスムードに包まれました。

この「北翔クリスマスナイト」は、学生自治会の主導で開催されました。

会長の秋本日向さん（教育学科2年）は「学生や教職員の方々が楽しめるイベントで学内を盛り上げたかったんです」と企画意図を語ります。着

想を得たのは、秋本さんが1年生だった12月のこと。「芸術学科の皆さんのがクリスマス装飾で彩られた1号棟の玄関がとてもいい雰囲気で、来年は学生自治会も協力させていただき、一緒にもっと大きなことをやりたいと思いました」

学生自治会会长
秋本 日向さん
教育学科2年

流アシスタント・COM」という3団体による学生ミーティングを実施。1号棟玄関の装飾は引き続き行うことを決定し、イルミネーションとステンドグラスは学生自治会、プロジェクトマッピングは芸術学科教員のサポートを受けるかたちでArtLab、1号棟玄関装飾は国際交流アシスタント・COMとArtLabが担当することになりました。

そうして秋本さんが2年生になつた昨年秋から、学生自治会が声をかけ、芸術メディア学科の有志チーム「ArtLab」、さらに国際交流行事を企画・運営するサークル「国際交

学生3団体が連携 教職員や同窓会の支援も

各部署の職員の方々にサポートしていただき、とても感謝しています」

そう振り返る秋本さんは、イルミネーション費用の捻出のため、本学同窓会「淑萃会」の事務局も訪問。「学生から全学生のための企画応援の声がかかるのを待っていた」という言葉とともに「快諾いただき、何事も自分たちから動くことが大切だと感じました」

学内外みんなのクリスマスの思い出に

こうして学生と教職員、同窓会が一丸となり、クリスマスシーズンのキヤンパスを明るく彩るプロジェクトが無事に実行されました。イルミネーションは12月19日～24日の夕方に点灯。「学生の皆さんが楽しそうに眺めている様子がうれしかった

です。期間中、ツリーの近くまで行けるように自分たちで除雪をして道をつくっていたのですが、道沿いに誰かが雪だるまを置いてくれたりして、学生みんなで盛り上げてくれている感じも伝わってきました」

1号棟玄関の装飾や、6号棟のステンドグラスをバックに学生たちが記念撮影をしている姿も。「その写真をSNSにアップしてくれたりと、皆さんのクリスマスの思い出のひとつになったようで、本当にやつてよかったです。期間限定で実施されたプロジェクトマッピングには、絵を提供してくれたお子さんのご家族60名ほどが来場。「自分の絵を見つけて喜んでいる子どもたちの姿にほっこりしました。小学校教員をめざしているので、子どものリアルな雰囲気を感じられ



- 6号棟学生ホール窓に設置したステンドグラス(学生自治会)
- 中庭プロジェクションマッピング。子どもたちの絵が雪面に映し出され、来場のご家族が喜ぶ姿が見られた(ArtLab)
- 1号棟玄関の記念撮影用フレーム(国際交流アシスタント・COM、ArtLab)
- イルミネーションでクリスマスツリーになった中庭の木(学生自治会)
- 1号棟玄関装飾の準備風景(国際交流アシスタント・COM、ArtLab)



土偶ヒーローが
子どもたちに大
人気で、熱心に眺
み

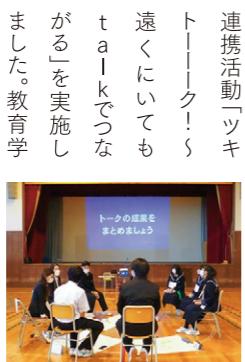
カルチャーナイト2022
2022年7月22日、札幌円山
キャンパスにて「カルチャーナイト
2022」施設プログラムを実施しま
した。生涯学習研究科の小室晴陽
教授と能崎大輔さん(修士2年)によ
る「縄文＆時計台トランスペロジ
ック」は、奥行き感ある映像表現
とアメコミ風縄文

雨漏りが知られて
くれた
屋上の異常事態
の件簿
File 2

大学の知と熱を、地域で暮らす人々へ。

北翔の地域連携

教育文化学部芸術学科の林亨教授
と山下圭介講師による「芸術学科教
員によるギャラリートーク」では、絵
画や彫刻の前でゆつくり鑑賞しながら
作者と談笑している来場者の姿が
見られました。地域の皆様へ文化的
なひとときを提供でき、私もどもとつ
ても大変喜ばしい経験となりました。



「体力を必要とする作業なので、ス
ポーツ系の学生たちはとても頼りに
なります」と笑顔の杉岡教授は、今
後も継続してゼミ生とともにそらぶ
ちを支援していくとのこと。「学
内で100回言つても伝わらないこ
とが、現場に行くと、すっと理解でき
るものなんですね。学生の成長につ
ながる機会をさらに広げていきたい
です」



「体力を必要とする作業なので、ス
ポーツ系の学生たちはとても頼りに
なります」と笑顔の杉岡教授は、今
後も継続してゼミ生とともにそらぶ
ちを支援していくとのこと。「学
内で100回言つても伝わらないこ
とが、現場に行くと、すっと理解でき
るものなんですね。学生の成長につ
ながる機会をさらに広げていきたい
です」

本 学では、ゼミナールを通じて
学生が地域社会と多様な接
点をもつ機会を設けています。今回
紹介するのは、生涯スポーツ学部・健
康福祉学科の杉岡品子教授のゼミ。
「心と身体を深く知る」というテーマ
を掲げており、ゼミ生はその一環とし
て「そらぶちキッズキャンプ」(以下そらぶ
ちのボランティア)に参加しています。

滝川市にあるそらぶちは、医療支
援体制を整え、小児がんや心臓病など
の難病とたたかう子どもたちに自然
体験を提供する日本初の施設。臨床
心理士、看護師、救急救命士でもある
杉岡教授は、そらぶちが本格始動す
る前の2010年から取り組みに関
わってきました。

ゼミ生のボランティア参加は2011
年から始まり、「何らかのかたちで
子どもたちを支援し、役に立ちたいと
いう思いをもった学生が集まってきた
ます」と杉岡教授。ゼミ生は、札幌市
内でそらぶちの活動を周知するイベ
ントの企画・運営に携わったほか、本
学の学内で開催されたそらぶち写真
展でも活躍しました。

現場ならでの大きな学び

そして、そらぶちが年に一度、10月
に現地で実施している「そらぶちフェ
スティバル」にも2021年から参加。
施設を一般公開し、地域の方に活動
展示でも活躍しました。

「最初はそれが疑われたのですが、調
べて、大きな学びを得た
という感想もありました」と、杉岡教授は
そらぶちボランティアの意義を語ります。
「体力を必要とする作業なので、ス
ポーツ系の学生たちはとても頼りに
なります」と笑顔の杉岡教授は、今
後も継続してゼミ生とともにそらぶ
ちを支援していくとのこと。「学
内で100回言つても伝わらないこ
とが、現場に行くと、すっと理解でき
るものなんですね。学生の成長につ
ながる機会をさらに広げていきたい
です」



ボランティアは成長の場。



雨漏りが知られて
くれた
屋上の異常事態
の件簿
File 2

札幌円山キャンパスの屋上に木が生えた?



「最初はそれが疑われたのですが、調
べて、大きな学びを得た
という感想もありました」と、杉岡教授は
そらぶちボランティアの意義を語ります。
「体力を必要とする作業なので、ス
ポーツ系の学生たちはとても頼りに
なります」と笑顔の杉岡教授は、今
後も継続してゼミ生とともにそらぶ
ちを支援していくとのこと。「学
内で100回言つても伝わらないこ
とが、現場に行くと、すっと理解でき
るものなんですね。学生の成長につ
ながる機会をさらに広げていきたい
です」

べていくと、排水溝に葉っぱなどが堆積
し、あわせて防水シートの経年劣化に
より、屋上に溜まった雨水がいろいろな
隙間から建物に入ったという結論に至
りました」

そこで西野部長は防水シートの張り
替えを提案し、急ぎで見積もりを取り
など奔走。しかしそれなりに大きな工
事のため、タイミングなどを考慮した
結果、雨漏りから約1年後の2022年7月から2ヶ月をかけて工事が行わ
ました。作業の様子を聞くと「大きなク
レーン車で防水シートを屋上まで釣り
上げる光景は圧巻で、思わず動画を撮
ってしまいました。完成したときは自分で
工事をしたわけでもないのに、なんだか
とても感動してしまいました」と笑顔。
ピカピカの屋上と「何事も日々のチエ
クは大事」という教訓を得て、事件は幕
引きとなりました。



雨漏りが知られて
くれた
屋上の異常事態
の件簿
File 2



8月初旬に大学連携の一環として月形町で実施している「ヘルシーミーティング」に小田史郎教授と学生が参加しました。このイベントではまず、小田教授から7月に実施した体力測定会の結果のフィードバックと「よりよい睡眠のための生活習慣について」の健康講話を行いました。その後、学生を中心となり「ゆる元体操」と「スカットボール」を実施し、参加の方に楽しんでいただきました。



小田教授による体力測定結果報告

月形町「ヘルシーミーティング」に参加しました。このイベントではまず、小田教授から7月に実施した体力測定会の結果のフィードバックと「よりよい睡眠のための生活習慣について」の健康講話を行いました。その後、学生を中心となり「ゆる元体操」と「スカットボール」を実施し、参加の方に楽しんでいただきました。

今回は「ゆる元指導者(初級)」や「介護予防リーダー」の資格を有する学生が参加し、彼らにとっても貴重な経験の場となったようです。今後もこのような実践的な学びができる機会を増やしていきます。



ニュースポーツのスカットボールを楽しみました!

こども学科は、講義、演習、行事等を通して、感性を豊かにし、保育・教育の現場で即戦力となる学生の養成を目指しています。



健康福祉学科 Department of Health and Welfare Science

月形町「ヘルシーミーティング」に参加しました！

2022年9月に北海道スポーツ協会主催「きたえーるチャレンジクラブ」の初回(全22回)が開催され、健康運動科学と保健体育科教育学のゼミ生が小学1~3年生を対象に体力測定を行いました。



コロナ禍により、対外的な活動に際し何かと歯痒い思いをしてきた学生にとって、それまで学習した体力測定の意義や方法、上手な説明の仕方を大いに還元できる貴重な機会となり、保護者からも感謝の声が多く寄せられていました。

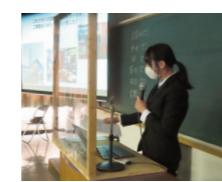
もう一度測定する2月の最終回では、初回よりも子どもたちと保護者の笑顔が見られるよう、更なるスキルアップを目指しています。



こども学科 Department of Childhood Studies

養成学校と保育現場の学びの質向上を目指して

ライフデザイン学科
キャリアデザインコース・
ファッションコース・舞台芸術コースは、それぞれ年度末教育集大成！



ラストスパート！の時期を迎えています。
1月20日には、2年ゼミ活動成果発表会を行い、後輩たちが興味深く聞いていました。

キャリアデザインコース1年はインターンシップ、ファッションコース卒業記念ファッショショ、舞台芸術コースは舞台上演舞を、各コース専門性を活かした企画事業を展開しています！

1年間の学び、そして次なるステップに繋がる学びが、教員たちの、学生たちの熱い想いの中で広がっています。



スポーツ教育学科 Department of Sport Education

月形町「ヘルシーミーティング」に参加しました！

生涯スポーツ学部 Department of Sport Education

体力測定を通じた子どもたちとの一期一会は貴重な学び

教育学科では現場での実践的・体験的な学びを重視しています。例えば、初等教育コースの学生達は、連携校である江別市立文京台小学校の修学旅行で、児童が有珠山の噴火活動で何が起きたのか探究する活動をサポートしました。また、音楽コースでも感染対策の工夫をしながら演奏活動を企画しています。養護教諭コースでは医療機関と連携した看護臨床実習、幼児教育コースでは保育機関と連携した様々な体験活動など…。



新型コロナウイルスに負けることなく、遠隔授業や座学では決して身につけることのできない学びを大切にしています。



教育文化学部 Department of Education

新型コロナウイルスに負けない実践的・体験的な活動



心理カウンセリング学科 Department of Psychology and Counseling

2年生次年度に向けて

心理カウンセリング学科の2年生は、12月に入り、必修科目「心理学基礎演習II」において、今年度の共同研究の成果を披露する発表会にて、グループごとに素朴な疑問から出発した心理学・精神保健福祉学に関するテーマをもとに進めていた研究の成果を披露しました。

そして、年が明けてからは、3年次・4年次に所属するゼミに関する説明会が行われ、各教員よりゼミの様子などを交えた紹介が行われました。

2年生はこれから大学生活後半での研究に取り組むゼミを選択してゆきます。

新人デザイナーの登竜門「装苑賞」において、4年の佐々木瑞さん(ライフデザイン学科からの編入生)が2次審査を通過、16組の中に選ばれました。そして、2022年6月、第96回装苑賞公開審査会(文化学園遠藤記念館大ホール)のランウェイで3体のコレクションを発表しました。

作品のテーマ「≠」のコンセプトは「内面、表面、証明」という精神論の論文をもとに成り立つ過程を構成として、自分の感情やそこから生まれる言動は当然の摂理であると表現しています。

審査委員は、コシノジュンコ氏、津森千里氏ら日本を代表するトップデザイナー8名により行われました。受賞には至りませんでしたが、このような機会を得たことは大きな成長の場となったのではないでしょうか。今後の更なる挑戦と活躍に期待しています。



芸術学科 Department of Art and Design

第96回装苑賞を通過しファイナルへ

学部・学科ニュース

Event 北広島市芸術文化センター花ホール ロビーコンサート出演

2022年5月、教育学科音楽コース研究生の赤岩咲良さん(遠軽高校卒)が北広島市芸術文化センター花ホールのロビーコンサートに出演しました。若手音楽家の活動の場として同ホール運営委員会が企画・出演者を公募し、毎月第2水曜日に開催しています。

赤岩さんは今春音楽コースを卒業、マリンバを専門として本学で研鑽を積んでいます。リサイタルなど積極的な演奏活動を行なっており、これまでの活動が評価されました。

当日のプログラムでは無伴奏エロ組曲第3番(バッハ)、ディ・イン・ブルー(ガーシュヴィン)など、多くの人が知っているクラシック曲を演奏しました。



Report 「北翔大学室内直走路完成式」が執り行われました

2022年9月21日、第1体育館2階に新しく設置された直走路前で、北翔大学同窓会(淑萃会)主催による「北翔大学室内直走路完成式」が執り行われました。陸上競技部に北風沙織監督が就任したこともあり、北翔大学に通う学生が外で練習できない冬期間も競技力向上を目指して活用して欲しいとの思いから寄贈されたものです。

同窓会の伊藤会長、山谷学長の挨拶に続いて、江別市出身で陸上十種競技日本記録保持者の右代啓祐氏による特別講演が行われました。日本を代表するトップアスリートの話を伺おうと、聴衆席であるスタンドには体育系部活・サークルの学生・指導者等約60名が集まり、真剣に聞き入っていました。



Sports 『北京2022冬季オリンピック報告会』を実施しました

2022年4月15日、北翔大学と北翔大学同窓会(淑萃会)主催による「北京2022冬季オリンピック報告会」が行われました。女子アイスホッケー日本代表の久保英恵さん、藤本もえこさん、スキージャンプ日本代表男子チームトレーナーの山田将平さん、女子スキージャンプ日本代表女子チームの平山友梨香さん、4名の本学卒業生が参加。会場には体育・スポーツ系の部活・サークルの学生31名が集まりました。また、リモートで多くの方に参加いただきました。

オリンピアンの生の声を聞き、参加学生からは「さらに頑張ろうと思った」「初心の大切さを再認識した」「人間力なくして競技力向上なしの言葉が胸に響いた」などの感想が寄せられました。



Event すべて学生企画の商店街クイズラリーを開催しました

芸術学科グラフィックデザイン領域では、学びの腕試しとして毎年デザインコンペに挑戦しています。今回は3年生4名が海上自衛隊大湊地方隊が募集する創設70周年記念ロゴマークデザインに取り組みました。知識や情報をその歴史から配備されている艦艇に至るまでリサーチし、ふさわしいロゴとは何か、ディスカッションを行いました。目に見えない人の想いや希望、ロゴマークに込めたいアイデアをスケッチから書き起こし、何度も作り直して最終形にまとめました。

大湊地方隊の皆様による審査の結果、芸術学科3年佐藤ななみさんの作品が審査員特別賞に選ばれました。

おめでとうございます!



Sports 第24回夏季デフリンピック女子バレーボール日本代表として出場

2022年10月29日、健康福祉学科・若木セミ3年生が企画立案から実施までを手がけた「商店街ワクワククイズフェリー」を開催しました。大麻銀座商店街で江別市のゆるキャラ「えべっちゃん」帽子をかぶった子どもたちや大学生、住民が商店街をねり歩きました。

デフリンピックは聴覚障がい者のオリンピックで、他の障がいより身体能力が高い理由でパラリンピックへの参加が認められないまま。一方でバレーボールのような集団競技においては、意思疎通が重要なのです。



北翔大学寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生の増加に伴い、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申上げます。

[募集期間] 2024年5月まで
(常時受付させていただきます)

[お問い合わせ] 総務部総務課まで
詳細は本学ホームページをご覧ください。
<https://www.hokusho-u.ac.jp/>

御礼申し上げます

札幌ユニオン新管財株式会社様より349,008円
(現物寄付のため相当額)のご寄付をいただきました。(令和4年度)
入井 優恵様より100,000円のご寄付をいただきました。
(令和4年度)
高田 真人様より10,000円のご寄付をいただきました。
(令和4年度)
小川 裕美様より30,000円のご寄付をいただきました。
(令和4年度)
北翔大学同窓会淑萃会様より7,040,000円
(現物寄付のため相当額)のご寄付をいただきました。(令和4年度)
他にも多くの皆様からご支援を賜りました。
また、江別市ふるさと納税においてもご寄付をいただきました。
厚く御礼申し上げます。

年間行事予定

4月 入学式
5月 オープンキャンパス
6月 オープンキャンパス
7月 オープンキャンパス
8月 編入学試験(第1期)
9月 創立記念日
前学期学位記授与式
大学祭(予定)
保護者懇談会
オープンキャンパス
10月 大学院入学試験(第1期)

2023年4月～2024年3月

11月 学校推薦型選抜・特別選抜試験
編入学試験(第2期)
12月 北翔クリスマスナイト(予定)
オープンキャンパス
1月 大学入学共通テスト
2月 入学試験(A日程)
編入学試験(第3期)
大学院入学試験(第2期)
大学見学会
3月 学位記授与式
入学試験(B日程)
編入学試験(第4期)
オープンキャンパス

今年もたくさんの「せんせい」が生まれます!

令和5(2023)年度採用の公立学校教員採用候補者選考検査において、本学から157名(現役88名、既卒69名)が第2次検査に合格し、教員登録されました。ここ数年の間、北海道と札幌市の採用検査における本学現役生の合格率は、受検者全体の数字を上回っています。特に直近の3年間では令和3年度が38.3%(全体32.2%)、令和4年度が47.1%(全体34.2%)、そして今回の令和5年度が61.8%(全体41.3%)と上昇傾向にあります。

本学では教職センターと各学科の連携によって教員採用の対策講座などを早期から計画的に実施。経験豊富な講師陣がオリジナルテキストを作成

して指導にあたっています。また各学科の教員が第2次検査の教科等指導法や面接対策にも親身に対応しています。

今後も教職員が一丸となって学生一人ひとりの目標実現に寄りそい、地域で活躍できる教員育成を推進してまいります。

合格おめでとうございます!

令和5年度
教員採用候補者選考検査
登録者数
157名



「おはようございます！」
声をかけられると元気が出ます。

PROFILE



芦別市出身。高校卒業後、自動車ディーラーに36年間勤務。営業職を経て営業所長。定年退職後、本学の警備スタッフに。「今年72歳だけど、あと3年は続けたいですね」。趣味は奥さまと楽しむパークゴルフ。

正

門前とスバル、2か所の警備を担当して、もう10年になります。正門前の主な業務は、車両で来校された方の入構許可証の確認です。許可証がない方は名前や行き先を書いてもらって一時許可証をお渡しします。駐車場以外に停めてしまったり、逆走したり、そういうときは注意をしますが、できるだけ丁寧に伝えるよう心がけています。

正門前には桜の木があって、春には美しい花を咲かせます。すごくきれいで、勤務時間の前後に撮影を楽しんでいます。エゾリスもいるんですよ。人に慣れたリスもいて、

学生さんが大勢で来ても逃げずにちょっと立ってね。リスが道を横断するときは、車に轢かれないようしっかり見守っています。(笑)そして、この仕事のいちばんの魅力は、学生さんの楽しそうな姿を見られることがあります。朝に「おはようございます！」と声をかけられる力は、学生さんの楽しそうな姿を見られます。下校時に「さよなら」「おつかれさまです」と言われたら、よっしゃ、あと2時間がんぱろうとかね。うちの孫たちもあと数年で大学生ですから、学生さんを見ながら、孫たちの将来を想像してみたりして。働きながら楽しませてもらっています。

小林聖一さん
—— 警備スタッフ

